

ハンマーナイフモアを利用した台切り更新の推進

要約

管内には経済樹齢を過ぎ生産性の低下した老朽茶園は多いが、生産者の高齢化により未収益期間の長い改植への取組は少ない。そのため大型機械（ハンマーナイフモア）を利用した茶の台切更新を推進し、生産力の向上を図る。

現状(背景)と課題

- ・経済樹齢を過ぎた老朽茶園が多く、生産力が低下。
- ・生産力の回復には改植が有効だが、高齢化、茶価の低迷により未収穫期間が長く、労力負担が大きいことから取組は進まない。
- ・未収益期間が短く、省力的な生産力回復方法が必要。

目標

- ・ハンマーナイフモアを利用した台切り更新面積 200a

活動内容

- ・山添村農業推進協議会でハンマーナイフモアを利用した茶の台切り更新研修会を開催。
- ・山添村農業推進協議会において台切り更新展示圃を設置。
- ・会議、講習会を通じ、補助事業や台切り更新の必要性について情報発信・推進。

成果

- ・ハンマーナイフモアを利用した台切り更新面積 214a (11名実施)



農業研修会風景



生産力の低下した茶園 (台切り更新前)



ハンマーナイフモアによる台切り更新の様子



台切り更新後の茶園 (9月29日)

普及活動のポイント

- ・茶の生産性向上にむけた台切り更新の必要性および効果について農業研修会で啓発。省力化を図るためリース事業の活用を提案。
- ・台切り更新推進のため、山添村単独の改植事業メニューに台切り更新の追加を要請。村単事業の導入と国の未収益期間の補助事業により農家負担を軽減。
- ・山添村農業推進協議会で台切り更新展示圃を設置。

対象の変化

- ・山添村の茶産地の現状と老朽茶園の更新に対する理解が進み、改植や台切り更新の必要性に対する認識が高まった。労力および収益面から改植に取り組む生産者は少なかったが、補助事業の導入やリース事業の活用によりハンマーナイフモアによる台切り更新の取組が増加した。

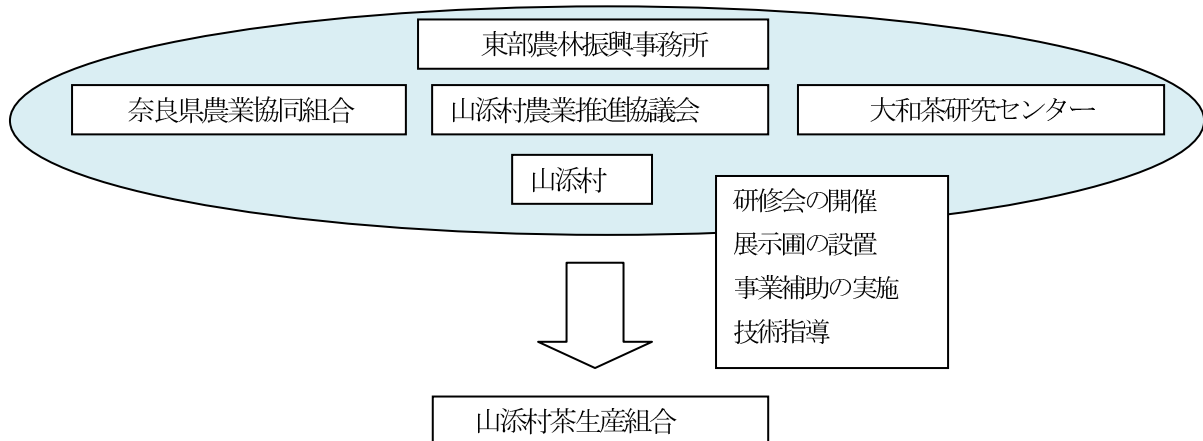
対象者からのコメント

- ・補助事業を活用し次年度にも取り組みたい。
品種特性や被覆栽培に適した整枝法が知りたい。

これからの活動ビジョン

- ・今年度の結果を基に、さらに台切り更新の普及を図る。

活動体制



用語解説

台切り更新

茶園の若返りを図るため、茶園の地際部から地上15センチメートルまでの高さで茶樹を切断することをいう。改植に比べ、未収益期間が短い。

ハンマーナイフモア

回転式フリーハンマーを装着したローラ走行型の除草機。

